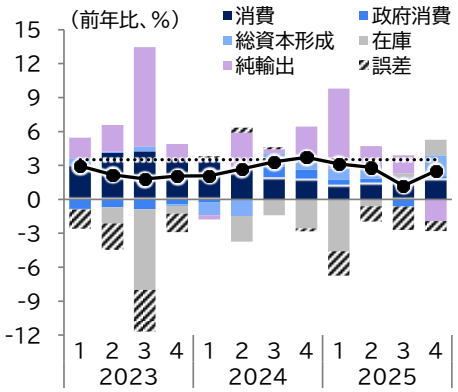
タイ

GDP（2025年10-12月期）

前期から持ち直しも緩慢な成長、新政権の構造改革が焦点に

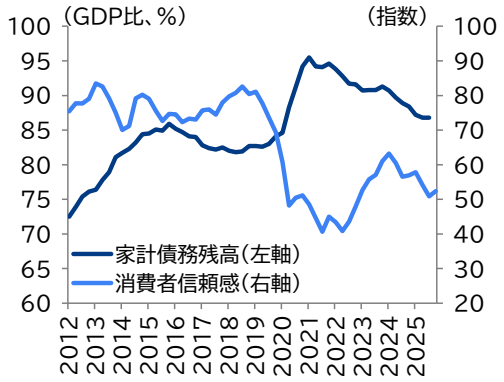
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 実質GDP成長率



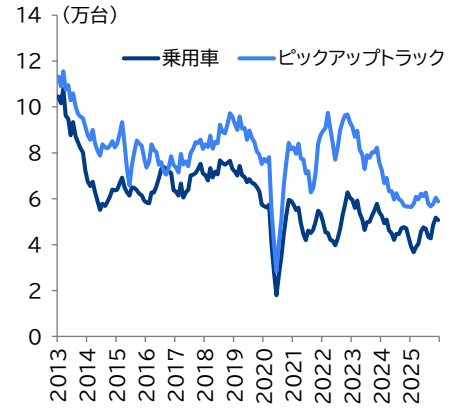
注：破線は2017-19年の四半期別成長率平均。
出所：タイ国家経済社会開発評議会を基に三菱総合研究所作成

2 家計債務残高・消費者信頼感



注：四半期データ。直近は家計債務残高が25年7-9月期、消費者信頼感が25年10-12月期。
出所：タイ中央銀行、タイ商工会議所大学を基に三菱総合研究所作成

3 月間自動車生産台数



注：3か月後方移動平均。
出所：マークラインズを基に三菱総合研究所作成

4 「タイの誇り党」が掲げる「エコノミー10プラス」の概要

項目	概要
生活者プラス	電気代補助金等による生活費削減
シニアプラス	高齢者の就労支援・税優遇等
コミュニティプラス	地域経済の活性化、人口流出の抑制
教育平等プラス	無償学習機会の拡充、就労支援
メイドインタイ中小企業プラス	低金利融資等による国内中小支援
投資プラス	政府ファンドを通じたインフラ投資拡大
グリーン経済プラス	50年CNに向けグリーン産業を推進
AIプラス	AIスキル習得支援、産業競争力向上
貿易プラス	戦略的パートナーシップによる輸出強化
タイランドプラス	許認可審査の迅速化によるFDI加速

□:「包摂的成長」関連　□:「競争力強化」関連

出所：「タイの誇り党」HP、各種資料を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 25年10-12月期のタイ実質GDP成長率は前年比+2.5%と、7-9月期の同+1.2%から持ち直した（図表1）。需要項目別に見ると、総資本形成（同+8.1%）が成長を牽引した。消費（同+3.3%）も4四半期ぶりの伸びとなった。輸出は同+5.6%とプラス成長を続けたが、輸入が同+9.1%と増加したことから、純輸出はマイナスに寄与した。
- これにより25年通年での成長率は同+2.4%となった。4年連続となる+2%台の成長であり、17-19年平均（+3.5%）と比較して弱い成長が続いている。

基調判断と今後の流れ

- ベトナムやマレーシアなど周辺国が堅調な成長を続ける一方、タイ経済は緩慢な拡大にとどまっている。
- 10-12月期の個人消費は、10月末に食料品や日用品の購入額の半額を補助する「コン・ラ・クルン・プラス」が開始されたことを受けて持ち直した。ただし、賃金の低迷や家計の高債務が重石となる構図は変わっていない。
- 家計債務は政府の債務管理措置により低下しているが、25年7-9月期でもGDP比90%弱と高止まりしており、消費者信頼感も低迷している（図表2）。
- 外需面では、カンボジアとの国境紛争やバーツ高の継続が輸出・観光の重石となっている。基幹産業である自動車生産も、中国系メーカーとの競争激化が重なり、23年以降低調に推移している（図表3）。
- こうした中、今月上旬の下院総選挙では与党「タイの誇り党」が最大議席を獲得した。第三党「タイ貢献党」などとの連立合意が公表されており、アヌティン首相の再選が見込まれる。
- 同党は、短期的な景気刺激策として「コン・ラ・クルン・プラス」の再実施を予定するほか、4カ年の経済政策「エコノミー10プラス」を掲げ、包摂性向上と競争力強化を通じて3%成長を目指す方針である（図表4）。
- もっとも、上記の下押し要因が短期的に解消する可能性は低い。26年も緩やかな持ち直しにとどまる見通しであり、新政権の政策が中長期的な構造改革につながるかが注目される。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.